



カカオノキ

Theobroma cacao L. アオイ科 (Malvaceae)

用途: 座薬の製剤用基剤

使用部位: カカオ脂

中南米に分布する常緑小高木です。生育には年平均気温24～28℃と、気温の変化が少なく、降雨の多い高温多湿条件を必要とするので、熱帯圏でも栽培の好適地はあまり多くないです。日本薬局方では、本種の種子から得た脂肪を「カカオ脂」として収載され、基剤^{※1}として使用されます。



※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単 (ショウヤクタン) ～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 326p.



カギカズラ

Uncaria rhynchophylla (Miq.) Miq. var. *rhynchophylla* アカネ科 (Rubiaceae)



生薬名: チョウトウコウ(釣藤鉤)

薬用部位: とげ

本州の房総半島以南の山林に自生するつる性植物です。枝はつる状になって水平に伸び、葉は長楕円形で長さ5～12cmで、その葉腋には側枝が変形した太く曲がった鋭いかぎがあり、他の植物などに絡みつきます。属名は、ラテン語の鉤 (uncus) に由来し、その「棘」のつき方に特徴があり、左右に2個出るものと1個出るものが交互につきます。生薬「チョウトウコウ」は、かぎ状の棘(とげ)を伴った短い茎からなり、成分としてリンコフィリン(インドールアルカロイド)などを含み、鎮静^{※1}、鎮痙^{※1}、血圧降下^{※1}などの作用を有します。一般用漢方製剤294処方^{※1}の抑肝散(よくかんさん)など6処方に配合されています。



※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単 (ショウヤクタン) ~ 語源から覚える植物学・生薬学名単語集~. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



カギクルマバナルコユリ

Polygonatum sibiricum Delar. ex Redouté キジカクシ科 (Asparagaceae)

(局方)*Polygonatum sibiricum* Redouté ユリ科 (Liliaceae)

生薬名: オウセイ(黄精) 薬用部位: 根茎

中国に分布する多年草で、草丈150～200cmになり、5～6月に開花します。和名は、葉の先端がかぎ状に湾曲していることおよび葉が茎に車輪状に着生していることに由来します。生薬「オウセイ」は本種の根茎を、通例、蒸したもので、シビリコシド(トリテルペン)などの成分を含み、滋養^{※1}、強壮^{※1}などの作用があります。一般用漢方製剤には配合されていません。主に種々の強壮ドリンク剤などに配合されています。



※1原島広至. 改訂第3版 生薬単(ショウヤクタン)～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



カキドオシ

Glechoma hederacea L. subsp. *grandis* (A.Gray) H.Hara シソ科(Lamiaceae)



日本、中国、シベリア東部に分布する多年草です。早春から初夏にかけて長期間にわたり花を咲かせ、夏になると茎が垣根の向こうまで蔓状に長く伸びる様から「カキドオシ」の名がつけられました。生薬名の「レンセンソウ(連銭草)」は神農本草経に記載されている名で、強壮^{※1}作用があるとされていますが、民間薬としては小児の疳(かん)を治すのに用いられることから別名「カントリソウ(疳取草)」とも呼ばれます。



※1 難波恒雄. 原色和漢薬図鑑(上). 大阪, 株式会社保育社. 1980, 517p.



カシアニッケイ

Cinnamomum cassia (L.) D. Don クスノキ科 (Lauraceae)



(局方)*Cinnamomum cassia* Blume

生薬名:ケイヒ(桂皮) 薬用部位:樹皮

中国南部やベトナム北部に分布する常緑高木で、高さ12～17mになります。桂皮は、古くから多くの漢方薬に処方される重要生薬で、樹皮にはケイヒアルデヒドなどの精油成分を含み、発汗^{※1}、解熱^{※1}、鎮痛^{※1}などの作用が知られています。「桂枝湯(けいしとう)」など一般用漢方製剤294処方のうち89処方に配合されます。産地名を冠したさまざまな商品名で流通していますが、現在、日本で薬用に利用されているものはベトナム、中国南部、ミャンマーなどの栽培品が輸入されています。



※1原島広至. 改訂第3版 生薬単 (ショウヤクタン) ～語源から覚える植物学・生薬学名集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



ガジュツ

Curcuma aeruginosa Roxb. ショウガ科 (Zingiberaceae)

(局方)*Curcuma zedoaria* Roscoe

生薬名:ガジュツ(莪朮) 薬用部位:根茎

インドおよびマレーシアに分布する多年草です。草丈は約1mになり、わが国では夏に開花します。日本には1700年代に渡来し、現在でも沖縄県や鹿児島県の種子島などで栽培されています。生薬「ガジュツ」は本種の根茎を、通例、湯通ししたもので、クルゼレノン(精油)、クルクメノン(セスキテルペノイド)などの成分を含み、健胃^{※1}などの作用があります。一般用漢方製剤には配合されていません。主に胃腸薬の原料となりますが、近年では健康補助食品などにも利用されています。清涼感のある香りがあり、味はわずかに辛く苦味があります。



※1原島広至. 改訂第3版 生薬単 (ショウヤクタン) ~ 語源から覚える植物学・生薬学名単語集~. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



カタクリ

Erythronium japonicum Decne. ユリ科(Liliaceae)



本州中部以北の山地に自生する多年草で、日当たりの良い落葉樹の下に生育します。3～4月頃に2枚の葉を展開して淡紫色の愛らしい花をつけます。種子には蟻が好むエライオソームという付属体があり、幼虫の餌として利用され、不要になった種子はその場所で発芽します。落葉樹の葉が開く5～6月頃には、鱗茎を更新して休眠に入ります。このような習性を示す植物を『春植物』と呼びます。





カミツレ

Matricaria chamomilla L. キク科 (Asteraceae)



ヨーロッパから西アジアに分布する一年草です。和名のカミツレよりも別名として使用されるジャーマンカモミールの呼び名が有名です。草丈は30～60cmの高さになり、5～7月ごろ茎の頂端に直径2cmほどの花を咲かせます。主として花にカマズレン、プロアズレン、ファルネセンなどの精油を含み、消炎^{※1}、鎮痙^{※1}作用があります。また、花にはリンゴの果実に似た特異な香気があり、ハーブティー、アロマオイル、入浴剤など幅広い用途で利用されています。



※1 蕭培根主編，真柳誠翻訳編集．中国本草図録 卷3．大塚恭男，庄司順三，滝戸道夫，丁宗鐵監修．東京，中央公論社．1993，258p.



カラシナ

Brassica juncea (L.) Czern. アブラナ科 (Brassicaceae)

中近東や中央アジアが起源地とされる一年草で、高さ1～1.5mになります。本種は、アブラナ (*B. rapa* L.) とクロガラシ (*B. nigra* W.D.J. Koch) が自然交雑してできた種といわれています。生薬「ガイサイ(芥菜)」は本種の若い茎葉で、去痰^{※1}、鎮咳^{※1}作用を期待して用いられます。本種の種子は、「和からし」の原料で、油を絞った後に細かく砕いて乾燥させたものが「粉からし」、この「粉からし」に水を加えて練ったものが「練りからし」になり、現在、チューブなどに入れて市販されています。辛味成分は、揮発しやすく、時間の経過と共に成分が抜けるので、「練りからし」には環状オリゴ糖などを加えて安定化させる工夫がなされています。



※1 相賀徹夫. 中薬大辞典 第一巻. 東京, 株式会社小学館. 1985, 702p.



カラスビシャク

Pinellia ternata (Thunb.) Breitenb. サトイモ科 (Araceae)



(局方)*Pinellia ternata* Breitenbach

生薬名:ハンゲ(半夏) 薬用部位:塊茎

日本の北海道から九州、朝鮮半島、中国に分布する多年草です。草丈10～20cmになり、4～5月に仏炎苞という葉が変形した苞に包まれた花茎を伸ばします。生存力が強い植物で、塊茎、種子、珠芽のいずれからも繁殖が可能であることから、厄介な畑の雑草としても知られています。生薬「ハンゲ」は本種のコルク層を除いた塊茎で、ホモゲンチジン酸(フェノール類)などの成分を含み、鎮静^{※1}、鎮吐^{※1}、鎮咳^{※1}、去痰^{※1}などの作用があります。一般用漢方製剤294処方のうち、半夏瀉心湯(はんげしゃしんとう)、六君子湯(りっくんしとう)など63処方に配合されています。



※1原島広至. 改訂第3版 生薬単(ショウヤクタン)～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



カラトリカブト

Aconitum carmichaeli Debx. キンポウゲ科 (Ranunculaceae)



生薬名: ブシ(加工ブシ) 薬用部位: 塊根

中国に分布する多年草で、比較的湿気の多い場所に生育します。草丈は60～120cmで、9～10月に青紫色の花を咲かせます。生薬「加工ブシ」は、本種の塊根を加工したもので、アコニチン(ブシジエステルアルカロイド)などの成分を含み、鎮痛^{※1}、強心^{※1}、利尿^{※1}、代謝促進^{※1}などの作用があります。一般用漢方製剤294処方のうち、八味地黄丸(はちみじおうがん)、桂枝附子湯(けいしぶしとう)など25処方に配合されています。全草にアコニチンなどの強毒成分を含み、呼吸中枢の麻痺や心臓麻痺を引き起こします。



※1原島広至. 改訂第3版 生薬単(ショウヤクタン)～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



カワラヨモギ

Artemisia capillaris Thunb. キク科 (Asteraceae)



生薬名: インチンコウ(茵陳蒿) 薬用部位: 頭花

日本の本州以南、朝鮮半島、中国などに分布する多年草で、日当りのよい砂地に生育します。このうち、河川沿いに自生するものは直立し、開花時の草丈は150cm前後、海岸に自生するものは地際から白い絹毛の密生した茎葉が伸びて地面を這うような草姿を示し、開花時の草丈は30cm前後になります。生薬「インチンコウ」は本種の頭花で、カピラリシン(クロモン)などの成分を含み、鎮静^{※1}、鎮吐^{※1}、鎮咳^{※1}、去痰^{※1}などの作用があります。一般用漢方製剤294処方のうち、茵陳五苓散(いんちんごれいさん)など4処方に配合されています。



※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単 (ショウヤクタン) ~ 語源から覚える植物学・生薬学名単語集~. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361 p.



キキョウ

Platycodon grandiflorus (Jacq.) A. DC. キキョウ科 (Campanulaceae)



(局方) *Platycodon grandiflorum* DC.

生薬名:キキョウ(桔梗根) 薬用部位:根

東アジアに分布し、日当りのよい山地や原野の乾いた場所に生育します。草丈40～100cmになり、茎や葉を傷つけると乳液がでます。花は青紫色の鐘形で、熟したさく果には細かな種子が多く含まれます。生薬「キキョウ」は本種の根で、プラチコジン(サポニン類)などの成分を含み、鎮咳^{※1}、去痰^{※1}などの作用があります。一般用漢方製剤294処方のうち、桔梗湯(ききょうとう)など31処方に配合されています。本種の野生株は激減しており、環境省レッドリストでは絶滅危惧Ⅱ類(VU)に選定されています。



※1原島広至. 改訂第3版 生薬単 (ショウヤクタン) ～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



キク

Chrysanthemum morifolium Ramat. キク科(Asteraceae)



(局方)キク科(Compositae)

生薬名:キクカ(菊花) 薬用部位:頭花

日本、中国などが原産の多年草で、草丈50～140cmになります。栽培化が進んでいるため、はっきりとした野生種は存在しません。わが国では古くより栽培されており、皇室の紋章として用いられる馴染み深い植物で、サクラとともに日本の国花とされています。生薬「キクカ」は本種の頭花で、ルテオリン(フラボノイド)などの成分を含み、解熱^{※1}、解毒^{※1}、消炎^{※1}などの作用があります。一般用漢方製剤294処方のうち、釣藤散(ちょうとうさん)など5処方に配合されています。東北地方などでは花卉に苦みが少ない食用菊が栽培され、茹でてお浸し、酢の物などに用いられます。



※1原島広至. 改訂第3版 生薬単(ショウヤクタン)～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



キササゲ

Catalpa ovata G.Don ノウゼンカズラ科 (Bignoniaceae)

生薬名:キササゲ 薬用部位:果実

中国に分布する落葉高木で、日本各地で栽培されたため、しばしば河岸などでは野生化した個体が見られます。果実にカタルポシド(イリドイド)を含み、民間療法として古くから利尿薬^{※1}として用いられました。民間薬として知られているのが、センブリ、ドクダミ、ゲンノショウコ、カキドオシ、キササゲなどがあります。キササゲとは、マメ科の野菜でササゲ(*Vigna unguiculata* (L.) Walp. var. *unguiculata*)に果実が似るため、木になるササゲに由来して付けられました。また別名を『雷の木』とも言い、本種を庭に植えておくと、その家に雷が落ちないという迷信があります。



※1原島広至. 改訂第3版 生薬単(ショウヤクタン)～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



キハダ

Phellodendron amurense Rupr. var. *amurense* ミカン科 (Rutaceae)



生薬名: オウバク(黄柏) 薬用部位: 樹皮

日本、中国北部、朝鮮半島などに分布し、高さ15mに達する雌雄異株の落葉高木です。和名は、厚いコルク層の内部樹皮が鮮やかな黄色を呈することに由来します。生薬「オウバク」は本種の周皮を除いた樹皮で、ベルベリン(アルカロイド)などの成分を含み、健胃^{※1}、消炎^{※1}などの作用があります。一般用漢方製剤294処方のうち、黄連解毒湯(おうれんげどくとう)、温清飲(うんせいいん)など19処方に配合されています。また、苦味健胃整腸薬として生薬製剤の原料にも用いられます。川柳で「だら助(陀羅尼助)は腹よりはまず顔に効き」と言われるように、苦味の強い薬で、奈良県吉野の大峰山の山伏が常備した薬として知られています。そのほか、打撲時の外用や、抗菌効果を期待して経典や貴重品などを包む布の黄色染料としても用いられます。



※1原島広至. 改訂第3版 生薬単 (ショウヤクタン) ~ 語源から覚える植物学・生薬学名単語集~. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



キバナオウギ

Astragalus membranaceus (Fisch. ex Link) Bunge マメ科 (Fabaceae)



(局方)*Astragalus membranaceus* Bunge マメ科 (Leguminosae)

生薬名: オウギ(黄耆) 薬用部位: 根

日本の北海道から本州中部、朝鮮半島、中国東北部、シベリア東部に分布する多年草で、草丈50~80cmになります。夏の暑さに弱い性質を持つので、京都などで栽培すると高温多湿で急に枯れることが多く、暖地では比較的栽培の難しい種といえます。生薬「オウギ」は本種の根で、ホルモノネチン(フラボノイド)などの成分を含み、利尿^{※1}、血圧降下^{※1}などの作用があります。一般用漢方製剤294処方のうち、十全大補湯(じゅうぜんたいほとう)、補中益気湯(ほちゅうえっきとう)など26処方に配合されています。



※1原島広至. 改訂第3版 生薬単(ショウヤクタン)~語源から覚える植物学・生薬学名単語集~. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



キバナオランダセンニチ

Acmella oleracea (L.) R.K.Jansen キク科(Asteraceae)



広く熱帯に分布する多年草ですが、寒さに弱いので温帯地域では一年草として扱われます。和名は、花の形状がセンニチソウに似ていてオランダから伝わったことが由来といわれています。薬効としては鎮痛^{※1}、鎮咳^{※1}作用などがあります。また、全草に辛味があることから、花や茎葉を香辛料にします。



※1 相賀徹夫. 中薬大辞典 第三巻. 東京, 株式会社小学館. 1985, 2109p.



クコ

Lycium chinense Mill. ナス科 (Solanaceae)



生薬名:クコシ(枸杞子)・ジコッピ(地骨皮) 薬用部位:果実・根皮

中国に分布する落葉性低木で、草丈1~2mになります。生薬「クコシ」は本種の果実で、ベタインなどの成分を含み、強壮^{※1}、新陳代謝増強^{※1}などの作用があります。一般用漢方製剤294処方のうち、杞菊地黄丸(こぎくじおうがん)の1処方に配合されています。生薬「ジコッピ」は本種の根皮で、クコアミンなどの成分を含み、強壮^{※1}、新陳代謝増強^{※1}などの作用があります。一般用漢方製剤294処方のうち、滋陰至宝湯(じいんしほうとう)、清心蓮子飲(せいしんれんしいん)の2処方に配合されています。また、薬膳料理として赤い果実が杏仁豆腐や中国粥の材料に用いられます。



※1原島広至. 改訂第3版 生薬単 (ショウヤクタン) ~ 語源から覚える植物学・生薬学名集 ~. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



クサスギカズラ

Asparagus cochinchinensis (Lour.) Merr. キジカクシ科 (Asparagaceae)



(局方)*Asparagus cochinchinensis* Merrill ユリ科 (Liliaceae)

生薬名: テンモンドウ(天門冬) 薬用部位: 根

日本、台湾、中国、朝鮮半島の海岸に分布するつる性の多年草です。草丈は100～150cmになり、5～6月に開花します。生薬「テンモンドウ」は本種のコルク化した外層の大部分を除いた根を、湯通し又は蒸したもので、アスパラギン(アミノ酸)などの成分を含み、滋養^{※1}、強壮^{※1}、緩和^{※1}、止渴^{※1}などの作用があります。一般用漢方製剤294処方のうち、清肺湯(せいはいとう)、滋陰降火湯(じいんこうかとう)など3処方に配合されています。



※1原島広至. 改訂第3版 生薬単(ショウヤクタン)～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



クサノオウ

Chelidonium majus L. subsp. *asiaticum* H.Hara ケシ科(Papaveraceae)

日本の各地、中国、朝鮮半島などの日当たりのよい低地に分布する二年草で、高さは30～80cmになります。開花期は5～7月で、枝先に黄色花を散形状につけます。薬効としては健胃^{※1}、抗菌^{※1}、鎮痙^{※1}、利胆^{※1}作用などがあります。



※1 難波恒雄. 原色和漢薬図鑑(上). 大阪, 株式会社保育社. 1980, 517p.



クズ

Pueraria lobata (Willd.) Ohwi subsp. *lobata* マメ科 (Fabaceae)



(局方)マメ科 (Leguminosae)

生薬名:カッコン(葛根) 薬用部位:根

日本の北海道～九州までの日本各地のほか、中国からフィリピン、インドネシア、ニューギニアに分布する多年草で、荒地や人手の入った後に放置された藪によく繁茂します。昔から秋の七草の一つとしてもよく知られています。和名は、かつて大和国(現:奈良県)の国栖(くず)が葛粉の産地であったことに由来しています。生薬「カッコン」は本種の周皮を除いた根で、ダイゼイン、プエラリンなどの成分を含み、鎮痙^{※1}、解熱^{※1}などの作用があります。一般用漢方製剤294処方のうち、葛根湯(かっこんとう)など14処方に配合されています。また根にはデンプンが10～15%含まれ、「葛澱粉」として和菓子などに用いられます。その他、本種の茎から得られる繊維で織った「葛布」は水に強く、袴や雨具などに用いられていました。



※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単 (ショウヤクタン) ～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



クスノキ

Cinnamomum camphora (L.) J.Presl クスノキ科 (Lauraceae)



生薬名: ショウノウ(樟脳)

薬用部位: 心材

日本の関東以西から台湾、中国南部まで分布する常緑の高木です。人形や衣服の防虫剤、花火の添加剤としても使用されています。精油成分には病虫害の忌避作用があり1000年以上の樹齢のものも見られることから、神聖な木として神社の境内に植えられます。過去、強心剤として用いられたことから、だめになりかけたものを回復させる措置や政策などを「カンフル剤」と表現されます。生薬「樟脳」には、鎮痛^{※1}作用があります。



※1 難波恒雄. 原色和漢薬図鑑(下). 大阪, 株式会社保育社. 1980, 521p.



クチナシ

Gardenia jasminoides Ellis アカネ科 (Rubiaceae)

生薬名: サンシシ(山梔子) 薬用部位: 果実

静岡県以西に広く分布し、庭園樹としても多く植栽される常緑低木です。生薬「サンシシ」は本種の果実で、ゲニポシド(イリドイド配糖体)などの成分を含み、利胆^{※1}作用があります。一般用漢方製剤294処方のうち、黄連解毒湯(おうれんげどくとう)、加味逍遙散(かみしょうようさん)など22処方に配合されています。色素は飛鳥時代から布地を黄色に染める染料として用いられ、現在でも“栗きんとん”などの食品の着色料に用いられます。和名の由来には諸説あり、寒さに当たって朽ち果てるまで裂開しないことから“口無”に由来する説が有力です。



※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単 (ショウヤクタン) ~ 語源から覚える植物学・生薬学名単語集~. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



クララ

Sophora flavescens Aiton マメ科 (Fabaceae)



(局方)マメ科 (Leguminosae)

生薬名:クジン(苦参) 薬用部位:根

日本、中国および韓国に分布する多年草です。草丈80～150cmになり、6～7月に淡い黄色の花を咲かせます。生薬「クジン」は本種の根で、しばしば周皮を除いたもので、マトリン(アルカロイド)などの成分を含み、抗炎症^{※1}、抗潰瘍^{※1}などの作用があります。一般用漢方製剤294処方のうち、苦参湯(くじんとう)、消風散(しょうふうさん)など5処方に配合されています。本種は、根を口に含むと目が眩むほど苦いことから「眩草(くららぐさ)」という別名がついています。また、樹木のエンジュ (*Styphonolobium japonicum* (L.) Schott) に似ていることからクサエンジュとも呼ばれています。



※1原島広至. 改訂第3版 生薬単 (ショウヤクタン) ～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



クロタネソウ

Nigella damascena L. キンポウゲ科 (Ranunculaceae)



南ヨーロッパ原産の秋播き一年草です。高さ50cm前後になり、5～6月に薄紫色や白色の花を咲かせます。日光にあたると発芽しない習性を持つので(嫌光性種子)、種を播くときにはやや多めに土をかぶせます。また、直根性の根を持ち移植を嫌いますから、直播にします。花の後には風船状の実がなりますが、これを茎ごと切って逆さにぶら下げて干しておくと、かわいいドライフラワーとして楽しむことができます。種子に利尿^{※1}作用がありますが、アルカロイドを含むので注意が必要です。



※1 佐竹元吉, 黒柳正典, 正山征洋, 和仁皓明. 健康・機能性食品の基原植物事典—食薬区分(非医): 写真で見る形態と食経験—. 東京, 中央法規出版株式会社, 2016, 884p.



ケイガイ

Schizonepeta tenuifolia (Benth.) Briq. var. *japonica* (Maxim.) Kitag. シソ科 (Lamiaceae)



(局方)*Schizonepeta tenuifolia* Briq. シソ科 (Labiatae)

生薬名:ケイガイ(荊芥穂) 薬用部位:花穂

中国に分布する一年草で、草丈は100～150cmになり、9～10月に開花します。英名を Japanese Catnip といいます。生薬名は「荊芥穂」と書いて「ケイガイ」と読みます。生薬「ケイガイ」は本種の花穂で、メントン(精油)などの成分を含み、鎮痛^{※1}、抗菌^{※1}などの作用があります。一般用漢方製剤294処方のうち、荊芥連翹湯(けいがいれんぎょうとう)、十味敗毒湯(じゅうみはいどくとう)など13処方に配合されています。



※1原島広至. 改訂第3版 生薬単 (ショウヤクタン) ～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



ゲッケイジュ

Laurus nobilis L. クスノキ科 (Lauraceae)



地中海北部沿岸地方に分布する雌雄異株の常緑樹で、高さ5～10mになります。日本には明治時代に渡来し、以来、庭園樹、記念樹などとして植えられています。果実には解毒^{※1}、抗菌^{※1}作用があるといわれています。本種は、常緑で葉に芳香があることからギリシャ神話では聖なる植物といわれ、古代ギリシャやローマでは勝利の象徴とされていました。現代でもその名残として、マラソンなどの優勝者に本種の枝葉でつくった冠が贈られます。また葉は、フランス語では「ローリエ」、英語では「ローレル」または「ベイリーフ」と呼ばれており、主に香りづけやにおい消しの目的で料理に多用します。



※1 相賀徹夫. 中薬大辞典 第一巻. 東京, 株式会社小学館. 1985, 702p.



ゲンノショウコ

Geranium thunbergii Siebold ex Lindl. et Paxton フウロソウ科 (Geraniaceae)



(局方)*Geranium thunbergii* Sieb. et Zucc.

生薬名:ゲンノショウコ 薬用部位:地上部

日本各地の山野に広く分布する多年草で、夏から秋に小さな5弁花をつけます。花の色は東日本で白色が、西日本では淡紅色が多いようです。生薬「ゲンノショウコ」は本種の地上部で、ゲラニイン(タンニン)などの成分を含み、整腸^{※1}、止瀉^{※1}などの作用があります。一般用漢方製剤には配合されていません。主に民間薬として整腸薬や止瀉薬に広く利用されています。飲むとすぐに効果を発揮することから「現の証拠」という名が付けました。



※1原島広至. 改訂第3版 生薬単(ショウヤクタン)～語源から覚える植物学・生薬学名集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



コウスイハッカ

Melissa officinalis L. シソ科 (Lamiaceae)



南ヨーロッパの地中海地域を原産として北半球の温帯地域に広く分布する多年草です。白みを帯びた花を初夏から晩夏に咲かせます。地上部に発汗^{※1}、駆風^{※1}作用などがあるといわれ、シト랄、リナロールなどを主成分とする精油を含有しています。ガムやキャンディーなどに含まれるほか、アイスクリームやケーキなどに添えたり、中東やインドなど暑い国ではさっぱりとした口当たりを楽しむさまざまな清涼飲料にも利用されています。



※1 アンドリュウ・シェヴァリエ. 世界薬用植物百科事典 日本の薬用植物のすべて. 難波恒雄監訳. 東京, 株式会社誠文堂新光社. 2000, 334p.



コウスイボク

Aloysia citriodora Palau クマツヅラ科 (Verbenaceae)



南アメリカのペルー、チリ、ブラジルなどを原産とし、高さ2~3mとなる落葉低木です。温暖な気候を好むことから、わが国では地域によっては戸外での越冬が難しい場合があります。葉には鎮静^{※1}作用があるといわれ、強いレモンの香りのする精油が豊富に含まれていて、ヨーロッパでは香りのよい観葉植物として、あるいはハーブティーを作るために広く栽培されています。



※1 アンドリュー・シェヴァリエ. 世界薬用植物百科事典 日本の薬用植物のすべて. 難波恒雄監訳. 東京, 株式会社誠文堂新光社. 2000, 334p.



コウホネ

Nuphar japonica DC. スイレン科 (Nymphaeaceae)

(局方)*Nuphar japonicum* De Candolle

生薬名:センコツ(川骨) 薬用部位:根茎

日本各地、朝鮮半島の池、沼、小川に分布する多年草で、5～7月に開花します。葉には水に浸かっている沈水葉と水面上に伸びる抽水葉とがあります。水中の根茎は一年に数センチしか伸長せず、生育が遅い植物としても知られています。生薬「センコツ」は本種の根茎を縦割りしたもので、ヌファリジン(アルカロイド)などを含み、利尿^{※1}などの作用があります。一般用漢方製剤294処方のうち、治打撲一方(ぢだぼくいつぽう)の1処方に配合されています。



※1原島広至. 改訂第3版 生薬単(ショウヤクタン)～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



コウリョウキョウ

Alpinia officinarum Hance ショウガ科 (Zingiberaceae)



生薬名:リョウキョウ(良姜)

薬用部位:根茎

中国南部の広東・海南島、広西、雲南の各省、台湾などの林に分布する常緑の多年草です。乾燥させた根茎は、主産地が高良郡(現在の広東省茂名県高州)であったことから、今日では「高良姜」と呼ばれることもあります。シネオールなどの精油成分を含み、芳香性健胃^{※1}、鎮痛作用^{※1}があり、漢方では冷えによる消化器症状に適応されることから、「安中散(あんちゅうさん)」など一般用漢方製剤294処方のうち3処方に配合されています。



※1原島広至. 改訂第3版 生薬単(ショウヤクタン)～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



コエンドロ

Coriandrum sativum L. セリ科(Apiaceae)



地中海地域およびコーカサス地方を原産とする一年草で、高さ50～80cmになります。スパイス名は「コリアンダー」で、葉・茎・種子などをカレーやソーセージあるいはソース類に利用します。生の葉は中華料理のシャンツァイ、タイ料理のパクチー、ベトナム料理のザウムイとして欠かせない素材ですが、属名がギリシャ語の南京虫(Koris)に由来することから判るように、カメムシのような強烈な香りがあり、香辛料としての好みが極端に分かれます。果実(コリアンダー・シード)は完熟すると芳香を放ちます。3000年以上も前から栽培されてきた歴史をもち、古代ローマ時代には肉の保存に使われていました。薬効としては健胃^{※1}作用などがあります。



※1 難波恒雄. 原色和漢薬図鑑(上). 大阪, 株式会社保育社. 1980, 517p.



コーヒーノキ

Coffea arabica L. アカネ科 (Rubiaceae)



エチオピアに分布する常緑低木または小高木で、アフリカおよび東南アジアの熱帯地域で、特に赤道直下の高地から北緯南緯25度までの「コーヒーベルト」と呼ばれる地帯で広く栽培されています。本種は味わいや香りに優れていることから、コーヒー生産の90%に用いられています。コーヒー豆は、同じ種でも栽培地域や標高などにより味が変わることから、例えばグアテマラ、コロンビアなどの産出地や積出地、積出港の名で呼ばれます。コーヒーにはカフェインが含まれ、消化促進^{※1}、利尿^{※1}作用があります。



※1 蕭培根主編，真柳誠翻訳編集。中国本草図録 卷9。大塚恭男，庄司順三，滝戸道夫，丁宗鐵監修。東京，中央公論社。1993，240p.



コガネバナ

Scutellaria baicalensis Georgi シソ科 (Lamiaceae)



(局方)シソ科 (Labiatae)

生薬名: オウゴン(黄芩) 薬用部位: 根

中国東北部、朝鮮半島、モンゴル、東シベリアに分布する多年草で、草丈30～60cmになります。生薬「オウゴン」は本種の周皮を除いた根で、その名は断面が鮮やかな黄色を呈していることに由来します。大株になると夏季の高温多湿と冬季の凍て上がりで枯れやすくなるので、2～3年生の株を秋に掘り上げます。バイカリン(フラボノイド)などの成分を含み、緩下^{※1}、利尿^{※1}などの作用があります。一般用漢方製剤294処方のうち、黄連解毒湯(おうれんげどくとう)、乙字湯(おつじとう)など53処方に配合されています。



※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単 (ショウヤクタン) ～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



ゴシュユ

Tetradium ruticarpum (Juss.) T.G.Hartley ミカン科 (Rutaceae)



(局方) *Euodia ruticarpa* Hooker filius et Thomson

生薬名:ゴシュユ(呉茱萸) 薬用部位:果実

東部ヒマラヤ、中国中南部に分布する落葉小高木です。葉、果実ともに特有の強い臭いを有します。生薬「ゴシュユ」の味は極めて苦く、辛味の強いものを良品とします。また古いものほど良品と考えられている六陳(りくちん)の一つです。ただし古すぎて辛味のないものは良くないとされています。成分としてエボジアミン(アルカロイド)を含み、鎮痛^{※1}などの作用を有します。一般用漢方製剤294処方のうち、温経湯(うんけいとう)、呉茱萸湯(ごしゅゆとう)など7処方に配合されています。



※1原島広至. 改訂第3版 生薬単 (ショウヤクタン) ~ 語源から覚える植物学・生薬学名単語集~. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



コショウ

Piper nigrum L. コショウ科 (Piperaceae)



インドのアッサムからミャンマーの丘陵地帯に分布して広く熱帯地方で栽培される常緑つる性の半低木です。茎の長さは5m内外になります。楕円形の葉を持ち、雌雄異株。穂状につく果実は成熟すると紅色になります。日本では正倉院薬物(756年)に見られ、発汗^{※1}、健胃^{※1}、駆風^{※1} (腸管内に溜まったガスを排出する)薬として用いられました。辛味成分であるピペリン(アルカロイド)は果実の中果皮に多く含まれます。ヨーロッパでは紀元前400年頃から香辛料や薬の材料として極めて重要な貿易品であり、また近世には本種をはじめとする香辛料の獲得をめぐる熾烈な争いの生じたことが史実に残されています。



※1 難波恒雄. 原色和漢薬図鑑(上). 大阪, 株式会社保育社. 1980, 517p.



コブシ

Magnolia kobus DC. var. *kobus* モクレン科 (Magnoliaceae)



生薬名: シンイ(辛夷) 薬用部位: つぼみ

北海道から九州にかけて分布する落葉高木で高さ8m内外に達します。京都では4月に開花が見られ、10月頃、長楕円形の果実をつけ、開裂すると赤色の種子が垂れ下がります。花蕾を乾燥したものが生薬「シンイ」で、コクラウリン(アルカロイド)などの成分を含み、鎮静^{※1}、鎮痛^{※1}作用を有します。辛夷清肺湯(しんいせいはいとう)など一般用漢方製剤294処方中4処方に配合されています。また果実を噛むと辛味があるため「コブシハジカミ」の別名もあります。古くは農作業や家事仕事の重要な季節指標植物でした。



※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単 (ショウヤクタン) ~ 語源から覚える植物学・生薬学名単語集~. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361 p.



ゴボウ

Arctium lappa L. キク科 (Asteraceae)



(局方)キク科 (Compositae)

生薬名:ゴボウシ(牛蒡子) 薬用部位:果実

ヨーロッパからアジアにかけて分布する、草丈100～200cmになる二年草です。日本にはもともと自生種はありませんが、縄文時代の貝塚で果実が確認されていることから、非常に古い時代に渡来したものと考えられています。一定期間の低温に遭遇すると花芽の分化が誘導され、夏季に花を咲かせて結実した後に枯れます。生薬「ゴボウシ」は本種の果実で、アルクチン(リグナン)などの成分を含み、発汗^{※1}、利尿^{※1}、抗腫瘍^{※1}などの作用があります。一般用漢方製剤294処方のうち、柴胡清肝湯(さいこせいかんとう)、消風散(しょうふうさん)など3処方に配合されています。



※1原島広至. 改訂第3版 生薬単 (ショウヤクタン) ~ 語源から覚える植物学・生薬学名単語集~. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



ゴマ

Sesamum indicum L. ゴマ科 (Pedaliaceae)



生薬名:ゴマ(胡麻) 薬用部位:種子

アフリカ大陸に分布する一年草です。草丈は約1～2mになり、夏に鐘状の花をつけ、下部から次々に開花します。日本には6世紀ごろ伝来し、当時から重要な作物として栽培されていました。種子の色により黒ゴマ、白ゴマ、金ゴマなどに分類されます。生薬「ゴマ」は本種の種子で、セサミン、セサミノール(ともにリグナン)などの成分を含み、滋養強壮^{※1}、解毒^{※1}などの作用があります。一般用漢方製剤294処方のうち、消風散(しょうふうさん)に配合されています。また、種子から得られるゴマ油は、紫雲膏(しうんこう)など4処方に配合されています。



※1原島広至. 改訂第3版 生薬単(ショウヤクタン)～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



コンニャク

Amorphophallus konjac K.Koch. サトイモ科(Araceae)



インドシナ半島から中国南部に分布する多年草で、地下に球根の一種である塊茎(かいけい)を形成します。日本への渡来は「和名類聚抄(わみょうるいじゅしょう)」に登場した平安時代とされています。生薬の「クジャク(蒟蒻)」は塊茎を乾燥させたもので、グルコマンナンを含み去痰^{※1}、抗腫脹^{※1}作用があります。また、本種の塊茎をすりつぶして糊化させたものに灰汁や水酸化カルシウムなどのアルカリ分を加えて固めたものが食用の蒟蒻(こんにゃく)となります。群馬県や栃木県などの北関東が国内での主産地として有名です。



※1 蕭培根主編, 真柳誠翻訳編集. 中国本草図録 巻3. 大塚恭男, 庄司順三, 滝戸道夫, 丁宗鐵監修. 東京, 中央公論社. 1993, 258p.